

## —名古屋港管理組合—

## 名古屋港管理組合建設技術協会の活動内容について

## 1. はじめに

名古屋港管理組合建設技術協会は、毎年、講演会や現場見学会等を実施している。本誌において、昨年度の主な活動内容について紹介する。

## 2. 現場見学会

現場見学会は、名古屋港近隣で施工されている規模の大きい工事を中心に事業者にご協力頂き見学をしており、平成30年度は、株式会社JERAの武豊火力発電所リプレース工事を見学した。

武豊火力発電所は、愛知県知多郡に位置し、昭和41年以降、中部地域の電力の安定供給に大きな役割を果たしてきた施設である。

武豊火力発電所のリプレースは、石油を燃料とする既存の発電設備を廃止し、燃料の調達安定性と経済性に優れた石炭を燃料とする効率的な発電設備の運転により、長期的な電力の安定供給と発電コストの低減を図るものであり、令和4年に運転開始される予定である。

発電所近隣の住居等への騒音及び振動に配慮するため、用地境界付近に建物3～4階建てほどの高さの仮設防音壁を設置するとともに、用地内地盤改良となるサンドコンパクションパイルの造成に当たっては、低騒音及び低振動を目的に静的締固め砂杭工法（SAVEコンポーザー）が採用されている。

本工場の規模の大きさを実感するとともに、近隣の住居等に配慮した工法の選定等、住民目線に合わせた工場の大切さを参加者一同で改めて認識させられた。



地盤改良工の状況

## 3. 講演会

講演会は、主に名古屋港に関連する内容について、行っており、平成30年度は、「名古屋のものづくりの歴史とこれから」をテーマに神戸国際大学の中村智彦教授にご講演頂き、盛況のうちに幕を閉じた。



講演会の状況

## 4. 機関誌「ほだ沖」

ほだ沖は、当建設技術協会が昭和43年以降毎年発行している機関誌であり、昨年度は、「豊かな海域環境の保全・再生」をテーマに第51号を発行した。

内容は、テーマに沿った記事、新入会職員紹介、名古屋港内で行われている事業の紹介、出向者による出向先の紹介、参加した建設技術講習会の報告、自由投稿と多岐にわたる。



ほだ沖

## 5. おわりに

名古屋港は、中部圏のものづくり産業を物流面で支える国際産業戦略港湾の実現に向けて、港の強靱化と港湾機能強化の取り組みを進めており、現在も多くの事業が進行中である。今後も現場見学会や講演会を通じて、名古屋港の技術者の知見を広めることと技術の研鑽に貢献したい。

（名古屋港管理組合 建設部 工事課 松井 義明）